

十神山



会報 安来節

YASU GI BUSHI

発行所 安来節保存会

〒692-0064
島根県安来市古川町534
TEL 0854-28-9988
FAX 0854-28-9393
http://www.y-hozon.com/
E-mail:admin@y-hozon.com

— 大師範 (8名) —

唄 永田 三和子 (本部道場)
唄 根 富美子 (本部道場)
鼓 今岡 淑子 (本部道場)
踊 一宇川 てい子 (本部道場)
絃 三宅 松四郎 (石見)
絃 友塚 元雄 (加茂)
鼓 日高 昭壽 (瑞穂)
絃 上田 耕一 (津ノ井)

(代議員会資料名簿順)

— 准名人 (3名) —



富田 光雄
絃の部 (宍道)



富田 英好
絃の部 (加茂)



渡部 弘充
絃の部 (本部道場)

上位昇格者

11月21日に開催された安来節保存会代議員会を経て、平成24年度の上位昇格者と表彰者が決定致しました。
今回、准名人に3名、大師範に8名の方が昇格されました。おめでとうございます。来年の1月10日の唄い初め会において、免状・表彰状の授与と昇格披露を行います。

会員表彰者

(46名) 1団体 (7名)

福田 瑞枝 (本部道場) 渡邊 早由里 (本部道場) 一宇川 裕好 (本部道場) 秦 秀俊 (出雲) 栗原 清高 (石見) 高橋 みどり (大田) 林 智美 (加茂) 阿部 三夫 (神門) 吉岡 照子 (湖陵) 古山 松子 (湖陵) 高橋 長年 (宍道) 錦 文夫 (宍道) 高木 豊子 (大社) 内藤 紀美子 (大社) 加藤 眞信 (大東) 石本 ウメヨ (那賀) 荒金 康富 (仁多) 神田 金 (濱田) 佐々木 光 (濱田中央) 原 千賀子 (斐川) 高橋 ヨネ子 (斐川) 山崎 政忠 (益田) 岩崎 美和子 (益田) 伊藤 美和子 (松江) 榎 谷 功 (松江) 渡辺 康乃 (尾高) 田中 一男 (尾高) 久宗 宏行 (津ノ井) 村本 富美子 (東伯) 小坂 義勝 (鳥取) 吉川 敏子 (鳥取) 仲島 菊江子 (米子) 曾根 由子 (江田島能美) 堀江 政子 (広島) 中川 英子 (広島玉実) 中上 安江子 (広島中) 中村 克見 (広島西) 中村 靖代 (広島東) 吉岡 靖代 (広島南) 伊丹 照子 (岡山) 三宅 和子 (岡山) 河本 康男 (松山) 澤田 美智子 (関西) 宇賀荘 公民館 太鼓教室

(代議員会資料名簿順)

新役員決定

任期 平成23年10月1日～平成25年9月30日

このたびの役員改選に伴い、新役員が決定しました。安来節がますます普及・発展するよう新役員の方々のご尽力に期待し、会員の皆様のご協力をお願いいたします。

会長

近藤 宏樹 (市長)

副会長

渡部 和志 (副市長)

専務理事

遠藤 孝 (市議会議長)

常務理事

成相 二郎

理事

中嶋 登 (市産業振興部部長)

理事

青砥 治朗 (商工会議所)

理事

渡部 お系 (家元)

監事

渡部 弘充

資格審査員

中本 實

指導部員

仲前 長治

指導部員

安達 順吉

指導部員

渡部 孝勤

指導部員

越野 幸夫

指導部員

須野 善吉

指導部員

榎野 茂夫

指導部員

石岡 邦夫

指導部員

石川 弘一

指導部員

伊藤 芳明

指導部員

野坂 守男

指導部員

安達 友之

指導部員

松村 益男

指導部員

糸賀 忠義

指導部員

松尾 英興

指導部員

野々村 美枝

なお顧問・参与・常任理事も改選されました。

財団法人日本民謡協会

平成24年新春民謡ショー

- 日時/平成24年1月21日(土) 午前10時開場
- 会場/メルパルクホール (港区芝公園2-5-20)
- 主催/財団法人 日本民謡協会

入場券 3,150円 全自由席

申込み(問合せ)先

財団法人 日本民謡協会

安来節保存会関東地区
安来節関東連合会関東支部
安来節保存会関東支部 事務局
〒340-0156 埼玉県幸手市南1丁目5-8
TEL・FAX 0480-42-3036

第16回 民舞の祭典

財団法人 日本民謡協会



出演者 財団法人 日本民謡協会安来節保存会関東若岑鼓蝶会社中
主催 財団法人 日本民謡協会 民舞の祭典 平成23年9月15日 於 きゅりあん大ホール

祝 安来節保存会 創立百周年



安来節保存会
会長 近藤 宏樹

安来節保存会も本年で創立百周年を迎えました。これも関係者の皆様のご尽力と時代時代に安来節を大切にし、親しまれた多くの愛好者のお陰で百周年という大きな節目の年を迎えることができました。

とりわけ、明治44年にそれまで唄い継がれてきた安来節を、地元愛好家のみなさんが奮起し、正調安来節保存会を創立され、更に振興すべく取組がなされた結果、今日の安来節があることあらためて感謝をいたしております。今日、全国で唄い親し



まれている安来節は、日本の代表的な民謡であり、数多くの愛好者を有し、その名声は不動のものとなつて参りました。現在全国に68支部、会員数約4千名を擁する大組織となり、単独の地方民謡団体としては日本有数の組織となりました。波静かな十神の山の緑を映す港町、安来の郷で生まれた郷土民謡安来節をこのように全国的に広めたのは、初代渡部お糸であります。国内はもとより当時の満州、朝鮮などにも巡業し、安来節の普及宣伝に努め、今日の隆昌は、初代渡部お糸の

功績によるものが大であります。

民謡は、人々の間で自然に生まれ、その土地・土地の生活感情を織り込んだ素朴な歌であり、今の時代に最も必要とされる自然への畏敬と、人間への情緒が随所に盛り込まれていると言われております。私共には素朴で美しい風土と暮らしの中で生まれ、唄い継がれた安来節を、貴重な伝統文化として正しく後世に伝える使命があります。

この記念すべき年を契機といたしまして、正調安来節がこの上とも全国の皆様に愛される民謡として一層精進を図るとともに、安来節保存会がますます隆昌発展するよう最善の努力をする所存であります。どうか皆様には、今後とも一層のご支援を賜われますようお願ひ申し上げます。

感謝状贈呈

吉本興業株式会社

大正の中頃、大阪の地で安来節を舞台で公演し、東京での大流行へと導き、安来節の振興に貢献されました。

本 部 道 場

安来節保存会創立以来、長年にわたり地元支部として各種事業にご協力いただき、今日の全国的な組織化に貢献されました。

根 岸 京 子

大衆芸能のメッカ、東京浅草で多年にわたり安来節の常設公演を行い、全国に安来節を広めていただきました。

石 田 信 夫

安来節の忘れ去られた古い事実を大正・昭和に安来節と共に生活し、広めた人々に歩いて、聞いて掘り起こされ、昭和五十七年「安来節」という著書を発刊、また今回百周年の記念冊子も執筆いただき、安来節の普及振興に貢献されました。

並 河 健 蔵

多年にわたり安来節保存会会報に寄稿いただき、安来節発祥の地の歴史、文化を紹介され、保存会会員の精神文化高揚に貢献いただきました。

二代目 安 達 順 吉

若い頃より安来節に親まれ、卓越した技倆をもって、多くの愛好者を育成されると共に、多年にわたり審査長として安来節保存会発展の為に尽くされました。



爽やかに山峡をゆく

—安来・清水寺古道ウォーク⑤—

並河健蔵

この頃、各地で「熊野古道」ならぬ〇〇古道ウォークが、歴史探訪と健康増進を兼ね備えたイベントとして開催されている。先般「安来・清水寺古道ウォーク」が実施されて、七〇〇名もの多勢が参加して好評だったので、その道程を紹介したい。

心地よい秋の日差しのもと、鳥取県米子市との県境に近い安来市の島田干拓地に立つと、茫茫として続くあたりが黄葉した公孫樹が孤高の如く伸びている。干拓地の一角、ふれあい公園を出発して、道の駅・あらエッサを左に見て川沿いを西へ。清水寺の信者の多い門生町の集落を通り抜けて国道九号を渡ると、太い自然石に深く刻まれた道標「清水道」が立つ。間もなくJR山陰線を跨ぐと、すぐに里山に至る。

この島田地区は元々水田が少なく、明治時代に里山を開拓して二十世紀梨などの果樹園を作り、筍の生産にも乗り出した。明治の末この山陰線が開通すると、販路は関西方面に延びて農家は潤い始めた。山陰地方でも多角経営の先駆的な地域である。見渡す梨山は収穫の最盛期であり、竹林は山を覆うほどに広がっている。山裾に新しい「清水街道」の道標が立ち、近くに丈の高い碇綱久之助の墓が目につく。文化四年（一八〇七）と刻まれていて、この地方で親しまれた力士の墓だという。幾分猫背のようにごつたい墓石は、力士の姿に似せたものだという。



力士。碇綱久之助の墓

少し進むと小さい祠の門生神社が林の中にあり、主祭神はウガヤフキアエズの名であるという。このあたりは浜辺であったようだ。昔の村人たちの共生の拠り所であったのだろう。彼岸花が美しく咲き揃う農道を行くと、左に坪坂池がある。この地域は水源となる川がなく、古くから山間に農業用水と

しての堤池が多く作られている。細波が運ぶ涼しい風が、やや汗ばんだ頬をなでて快い。

この池を後にして進むと路肩が柔らかい砂利道となる。いよいよ清水峠の入口と思われるように、竹林を背に観音地蔵がひっそりと立っている。土台石には米子の町の商店主が連名で建立したと記され、緑鮮やかなしづぎが生けられている。誰かが詣でているようで、信心深い村人の優しさを知って心が和む。かつて清水寺の信者の多くは伯耆の国（今の鳥取県西部）の人々であった。この地蔵もそのゆかりの深さを物語っている。古老の話として伝わる「出雲の大山・伯耆の清水」も、このことを指しているのではないか。

しばらく進むと道が二手に分かれるところに山桜の大きな木があり、右へ行くと仁王門に至るようだ。誰いうとなく「別れの一本桜」と呼んでいる。

かつて松江・松平藩の初代藩主直政公が、次男・近栄に三万石を分封して広瀬藩（現安来市広瀬町、月山富田城跡）を成してから、広瀬清水街道は参勤交代の道程として整えられた。つまり広瀬から清水峠（仁王門の所）を越えて門生で山陰道に合流するのである。江戸時代からこの道が、清水寺へ参詣する表参道であったのである。かさかさとした落葉を踏む音が快い。木洩れが差す辺り、倒木に茸が群生している。

今から四十年前も前の昭和四十七年のことだ。根本堂のご本尊が、こともあろうに盗まれるという事件が起きた。「裏山の険しい崖の陰にいる」とのお告げを夢に見た信者の訴えに総勢で探したのがこの暗い林の辺りであったろうか。ご本尊は幸いにも翌年、尼崎の古美術商の店で発見されて、無事にお帰りのになった。わが国の高度成長期の出発点であった。しばらく登ると、葉隠れに古色蒼然たる仁王門が見え始めた。次回は壮大な清水寺に往時をしのぶこととする。



名 人
二代目 安達順吉
(本部道場)

保存会創立百周年を迎え、会長さんより感謝状を戴き、身に余る光栄と感銘です。これも皆さんのおかげと思ひ、一筆ペンを取りました。入会以来七十八年になります。家族は許より、先輩の皆様方を始め、会員の皆さんのおかげと深く心に打ち込んでおります。

昔は階級も白・青・赤班と三階級でしたが、入会后、白、赤と二回も優勝し、これが私の励みだったと思っております。おかげ様で全国あちこちを廻らせて戴き、色々と勉強させて戴きました。また至らぬ者が指導部長、審査長までさせて戴き、何とも申し様がありません。

どうか会員の皆様、益々健康に留意されて保存会発展に一層の御奮闘努力されますようお願いを申し上げ、厚く御礼と致します。



名 人
上代安夫
(松江支部)

子供の頃、父の側で昔の蓄音機の安来節、漫才の中の唄を聞いていた。戦時中、学校で友人が「ドッコイシヨ」と唄ったのを校長先生に見つかり「誰に習ったか」と叱られ、その友人が「上代に習った」と、その後二人とも職員室に呼び付けられ、「子供の唄ではない、学校で唄うな」とやんわりと叱られたエピソードがある。

安来節を始めたのが昭和三十六年十二月、松江支部へ入会し、今年で五十年、振り返れば多くの人々と出会えた事だけでも私の人生を豊かにしてくれた。兄は私より十年早く始めていて、当時は松江に勤めており、夜、練習するのを見たり、話を聞いたりしていたので、我流でも唄えると思っていました。習いに行つて初めてそんな簡単なものではない事を知り、一層やる気が強くなりました。昭和四十年代の師範の頃が一番楽しく、優勝大会に出るのが最大の目標でした。大師範、准名人に昇格し



名 人
原文男
(松江支部)

去る十月十六日、安来市民体育館に於きまして、安来節保存会創立百周年を祝う記念式典が行われました。その祝賀行事では、保存会の発足当時から現在に至るまでの過程がスライド写真で紹介されました。私もその式典に参加させていただいておりましたが、スライドを拝見しながら、自身の歩んできた道のりと重ね合わせ、様々な事を思い浮かべておりました。私は、たまたま安来節の本場である安来の地に産まれたという中、育ったものから、気がつくところ、小学四年生から唄と鼓を習い始めてお

りました。当時は現在のように少年の部というものが無い時代で、子供も大人に混じって大会に出場しておりました。そのような中で何度か入賞させていた、たく事もありません。中学に入って、一時休会いたしました。昭和四十年に再入会をしまして、現在まで稽古に励んで参りました。

お陰様をもちまして、今では、ようやく自分なりにある程度納得のできる芸を披露できるようになったと思っております。これからも諸先輩方から教わった芸を若い世代の方々に余す事無く伝えていくつもりです。後進の方々には、ぜひ基礎、基本を大切にしながら安来節の歴史と伝統を末永く継承していただきたいと願っております。

最後にりましたが、これからの安来節保存会の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

私と安来節



西村百合子
(米子支部)

安来節に出逢ったのは、地域の敬老会を公民館に見に行った時でした。演芸の中に安来節があつて、三味線を習つてみたいと思ひました。大師範の先生に申し込み、道具を揃え、胸はずませて習うようになりました。もう止めたくなくなり、練習日も出たり、休んだり力が入りません。仲間が上手くなつてくると余計に嫌になりました。三年目頃から弾けるようになり、楽しさも感じるようになりました。止めなくて良かったと反省しました。全国優勝大会には絃の部で三回も出たし、一回は三位入賞も出来た事はすごい経験でした。

私の性格は、いたってマイペースで先生からみると良い生徒ではないです。大師範の先生は一生懸命に指導して下さい、「さすが三段の唄だ、絃だ、准師範、師範だ」と言われるように練習しなさいと言われます。磨き上げられた大先生達の技術を研修会や舞台で見るたびに感激して「よし帰ったら練習しよう」と何回心に決めた事か、帰ったらすっかり忘れて、どこ吹く風の如く、「まあいいか、明日練習しよう」と、テレビを見てしまふ、そんな調子の現在の私です。

先生の会を立ち上げて二十八年目、今年には安来市広瀬町の富田山荘で親睦会をしました。この間、会員の入れ替わりもありましたが、楽しんで唄つたり、弾いたり、会話ははずみです。保存会に貢献出来るように会をみんなで盛り上げて行こうと続けています。



和久利 健
(仁多支部)

安来節との出会いは、平成十七年の十一月、仁多支部長の富田とみお先生の三回目の三味線の誘いでした。気軽な気持ちで先生のお宅に通い出し、翌年の三月には資格審査を受け、二級に合格したのが始まりでした。毎週先生のお宅に通い、一曲覚えるたびに楽しさにはまりだしました。いろんな曲を教えていたたけるので、次回が楽しみでした。その中でも安来節が一番難しいし、奥が深いです。

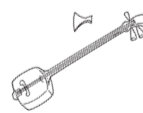
安来節のおかげで三味線に魅せられ、二年前から五代目富田徳之助先生の指導も受けさせていただき、今年



岩本忠賢
(山口支部)

定年退職後、何をすることもなく過ごしていたある日、安来節会員募集の演芸会が近くであるとの事、早速会場に向きました。三味線と鼓の演奏から、唄、どじょうすくい踊りが始まりました。こんな踊りもあるのだと初めて知りました。この踊りなら自分でも出来そうだと思います。入会しました。ところが、見るとやるとでは大きく違い、なかなか思うようには体がついて行けません。腰は痛い、太ももは疲れる、リズムはとれないと悩みに悩んでおりました。

そんなある日、出雲地方より講師が来られ、指導を受けました。その日は運良く出席者が少なく、私の指導にたくさん時間を割いていただき、事が出来ました。お陰様で少し理解を深める事ができ、踊りの楽しさを感じながら稽古に励めるようになりました。それから数年の月日が流れ、最近では後輩も何名か入会して来ました。その後輩達にも、過去、私が体験したように踊りの楽しさを感じてもらいながら稽古に打ち込んでもらえな



支部紹介



竹内 智 (大江戸支部)

定年退職後、親を介護するため、故郷の境港市に住んでいたが、それが終わって埼玉県の自宅に帰って来た後、少年時代から耳にしていた安来節を習うべく、三年前に入会した。

大江戸支部は設立から八年目を迎えるが、西は多摩から東は市川までの広範囲の地域において各教室で稽古に励んでいる。活動の一つとして福祉施設への慰問公演をたびたび行っているが、唄・三味線・鼓・踊り・銭太鼓と安来節ならではの多彩な演目のおかげで飽きが来なくて非常に楽しいと好評である。

また、会員の技量向上と安来節の普及を兼ねて、種々の民謡コンクールへ出場している。一例をあげれば、昨年の世田谷区民謡連盟のコンクールで演目五棒全部を安来節で出場するという徹底振りに他会の方から驚かれた上に、唄の部門で当支部会員が優勝するという嬉しい出来事もあった。七月には東京新聞から安来節紹介の取材を受けた。絶好の宣伝機会とさえ、多数の会員で出迎え、安来節の何たるかを実演と質疑応答と資料で説明したが、お愛嬌として取材記者にどじょうすくい踊りと銭太鼓を見様見真似で体験してもらった。我々も大爆笑であったが、これにより巧まざるユーモアが記事にじみ出る結果となった。首都圏の各支部連絡先を載せてもらった。希望者にはその記事を配布出来る。

被災地・福島の人々と共に



中村 英生 (東京支部)

東北大地震後一ヶ月ほどしてから、「建物の補修が終わって再開できるように頑張ってください」と、福島・郡山のカルチャー校からの電話でした。先日、Tさんが「この間、南相馬へ行く途中『どじょうすくい』が描かれている黄色いバスを見てビックリした」と感動的に話してくれました。安来市から福島県相馬市に譲渡されたバスだったのです。そして、「どじょうすくい」踊りを始めていなかったら見過ごしていた」と言っていて、安来節踊りとこの接点を身近に感じてもらえた機会があったことは、私もホントに嬉しく思いました。「あ

の踊りは平らな心でないと踊れない」と、震災後来られなくなった人も少なくありません。放射能汚染は永らく健康に関わる深刻な事態ですが、私の亡き母の故郷でもある福島の方々にいづらかの安らぎとゆらぎを感じてもらえるよう、心を寄せて引き続き活動していこうと意を強くしました。既に演芸ボランティアで、「喜んでもらった」という人もいて、地元福島の方が自ら踊ってこそ互いの元気づけがより増すことでしょう。やがて安来節そのものに親しみを感ぜてもらい、福島と島根・安来の街の架け橋のわずかな一端にでもなればと願っています。東京支部には、東京を中心に長野から福島さらに北海道まで幅広い会員の皆さんがいますが、それぞれの地域の方々とも安来節をさらに広く活動していきたいと思います。今後とも諸先生方のご指導、ご鞭撻をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

二十周年行事記念祝賀会



土江 正信 (宮島支部)

去る九月十一日、当支部が二十周年を迎え、その記念祝賀会を開催致しました。近隣支部及び他の民謡会主の方に加え、来賓を迎え、ささやかと言えど三十名をこえる出席者の方々に、四十七演目を約四時間掛け、盛会裏に終了しました。安来節はもちろん、様々な民謡を披露してもらい、地方の民謡の多さとその技能に感嘆すると共に、改めて安来節の素晴らしさを知る事が出来た。開催テーマは「ささやか」「皆と協同」「充実」という相反するものの両立で企画し、進めました。対応人員不足の理由から、他支部会員の給士応援を受けたことに加え、会員の事務上の取引先から女性の中国人研修生にも司会役、手伝い役を担って頂きました。これも取引先の社長さんの理解及び職場の安来節保存会OBのご協力で実現したものです。研修生は、国際交流・日本の技能習得の目的で来



広中ですが、手伝い体験しながら文化・芸能に触れる事ができ、一石二鳥の有意義なものとなりました。そして、舞台には次代を担う子供の育成が大事と位置付け、プログラムに折込んだ演目を披露し、拍手喝采をもらいました。概ね、出席下さった方々からは「良かったよ」とのお言葉を頂戴しました。皆様のご協力、大変ありがとうございました。次回、このような節目行事が開催できるかどうかは「会員数次第」と思うのですが、それが実現できるように皆様と共に取り組んで行きたいと思えます。

会員の声コーナー

生涯の宝・安来節



楠部 勝海 (江田島能美支部)

私が生れ育った瀬戸内の集落では、隣近所で食料・酒を持ち寄り会食する風習が戦後、約二十年あった。酒がすすむと手拍子で「安来節・どじょうすくい」を唄い踊るのが定番であった。私しや備前の岡山生れ米のなる木をまだ知らぬ父が愛唱していた歌詞、小一ころであつたが今も鮮明に覚えています。昭和六十年「生涯の宝」となる安来節との縁を頂くこととなりました。病身となった父、姉弟での分担介護を

開始。私の当番日、長姉の安来節教室。気分転換で見学に伺った。初めて生で聞く唄・絃、その素晴らしさに感動すると同時に指導される石川弘一先生の的確なアドバイスに心酔し、即入会を決意致しました。爾来、二十五年、安来節に恋をし、往復三時間の道程も苦にせず通えました。両親は他界しましたが、精一杯の孝行ができた事、感謝しています。私達夫婦は他に四十年継続している趣味があります。目的を共有することで、対話、行動機会も増し、潤いある生活を送っています。石川先生のお陰で夫婦共に師範に昇格、教室指導も任せて頂きました。昨年の全国優勝大会では、担当する会員が上位で入賞、益々「安来節」への情熱が昂まっています。これからも日々研鑽を重ね、微力ながら安来節の普及発展に努めて参ります。今後ともご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

事務局からのお知らせ

平成24年1月～2月にかけて、師範以上の方々を対象に種目別の研修会を開催致します。

参加につきましては、当日参加も可能ではありますが、人数の把握の為、事前に事務局までお申込ください。

なお、日程等につきましては右記の通りです。

《部門別講習会日程表》

Table with 7 columns (日, 月, 火, 水, 木, 金, 土) and 5 rows of dates for January 2024. Activities: 1-7 (空), 8-14 (空), 15-21 (唄), 22-28 (絃), 29-31 (空).

Table with 7 columns (日, 月, 火, 水, 木, 金, 土) and 5 rows of dates for February 2024. Activities: 1-4 (空), 5-11 (鼓), 12-18 (銭), 19-25 (空), 26-29 (踊).

安来節のしおり (平成23年度版) に誤りがございました。訂正してお詫びいたします。

【訂正】 P24 准師範の部 ① 絃 奨励賞 神戸支部 安藤龍生 ② 絃 奨励賞 神戸支部 安藤龍正

P25 准師範の部 ① 踊 準優勝 神戸支部 安藤龍生 ② 踊 準優勝 神戸支部 安藤龍正

P28 平成22年度 準優勝 神戸支部 ① 安藤龍生 ② 安藤龍正

安来節100年! 支部創立30年!

頑張っています

江田島能美支部